

# 障害者福祉施設従事者等による虐待防止の体制づくり

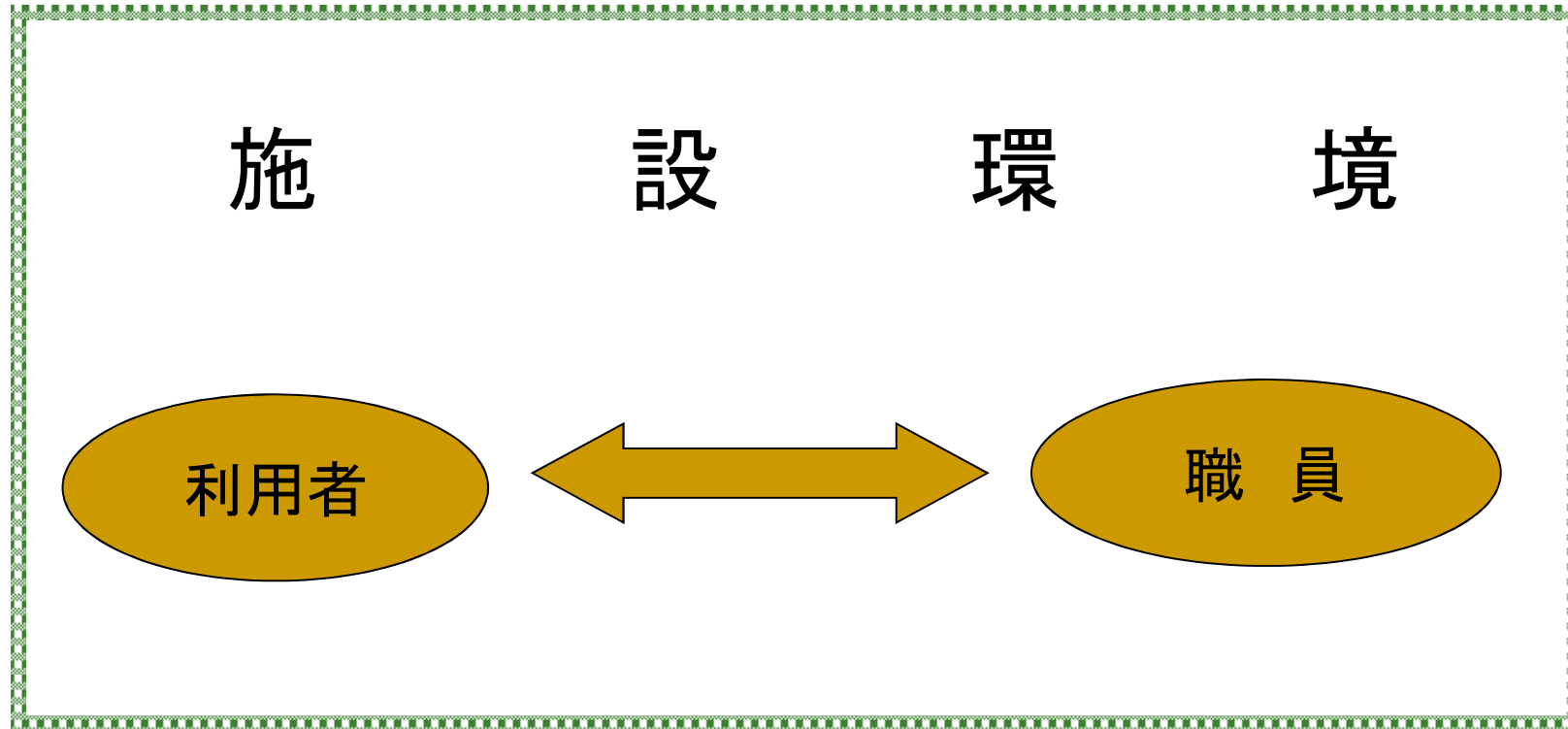
社会福祉法人 東京都知的障害者育成会

世田谷区立砧工房

分場キタミ・クリーンファーム

施設長 浅野日奈子

職員は支援する 利用者は支援される



# 施設環境の特徴

- 人材を安定的に確保することが難しい。
- 外部からの目が入りにくい。
- 様々な問題が次々に起こる。
- 利用者の多様なニーズに対応
- ルール、規則が多い。
- 職員にとって「職場」利用者にとっては？
- 価値観や倫理観、支援観、人間観の違う人達が混在している。

# 職員がおかれている状況

---

- 常に忙しく、張りつめた気持ちでいる。
  - 腰痛などの身体的な苦痛に悩まされている。
  - 問題を一人で抱え込みやすい。(不安・孤立)
  - 目的が不明確になり、先が見えなくなりやすい。
  - スキルを高めるための時間が充分に取れない。
  - 感情労働(心に負担がかかりやすい)
-

# 利用者がおかれている状況

- 自己肯定感が低い。(自分が悪いから・・・)
- 管理されることに対する慣れ。(あきらめ)
- 今現在の状況に居心地の良さを感じやすい。
- 職員の機嫌に一喜一憂。
- 思いを伝えたり受け止めることが難しい。
- 自由が制限されやすい。
- 「わからない」ことが多い。

---

# 各事業所の虐待防止への取り組み

- 虐待防止委員会の設置
  - 苦情処理体制の整備
  - 職員への援助(チームで担う)
  - 研修(虐待防止研修や支援技術研修ほか)
  - 虐待防止チェックリスト・事故報告・ヒヤリハット報告(PDCAサイクルの活用)
  - サービス評価やオンブズマンの活用
  - グレーケースの検討
-

---

虐待する側も、される側も、

虐待に気づきにくい

---

## 虐待の芽に気付くために

- 利用者一人ひとりの「価値観」について理解する
- 利用者の言葉（本音）を代弁しようとする。
- 利用者の行動の背景や生活背景に着目する。
- 「何故その支援が必要なのか」を考える。